



Newsletter

No.88

2021年11月15日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

レイバーフェスタ「20回目 また歩き始める！」

—川柳・3分ビデオ大募集します—

10月総選挙の結果は、「アベスガ政治」の継続、野党の後退、極右「維新」の急増でした。改憲が現実味を帯びてきたイヤ～な感じですが、でもよく見れば「野党共闘」の成果をいくつも見る事ができます。東京8区では石原伸晃を破り、神奈川13区では落選運動が成功し甘利明幹事長をひきづり下ろしました。また「れいわ新選組」は3議席まで躍進を果たしました。そんななか足を引っ張った大企業労組「連合」の果たした役割をしっかりと監視・批判していく必要があるでしょう。

来年夏には参院選もあります。コロナ禍で広がる貧困・格差。はたらくものの生活を守り、改憲を止めるためにも、ここはしっかり踏ん張らなくては。「生活・平和・人権」を求めるあたりまえの声をいっそう上げるときでしょう。2002年にスタートした「レイバーフェスタ」も今回で20回目を迎えました。レイバーフェスタ2021はその節目の年として、参加型フェスタの「集大成」にしたいです。ぜひフェスタを一緒につくりましょう。あなたが言いたいことを「川柳」「3分ビデオ」でお寄せください。(M)

〔演目紹介〕 レイバーフェスタ2021

12月25日(土) 全水道会館 10:00 - 17:00

< 講談「ローマ教皇との運命の出会い～原発事故で避難した少年の物語」 >



神田香織さんの新作講談を聴くと、福島はまだまだ終わっていない。終わっていないどころか、これからだ。そう強く思った。物語の主人公は、福島県いわき市から東京に避難した鴨下全生

(まつき)さん。原発事故の時は8歳で、転校先でひどいイジメにあう。生きることを諦めなくなるほどの苦悩だったと彼は言い、9歳の時には「天国にいきたい」と願い事を書いた。「家が壊れていないのに、賠償金欲しさに逃げた」。鴨下さん一家をはじめとする区域外避難者に向けられた世間の目はそう語っていて、それに抗う力量など持ち合わせるはずもなかった。

中学校に上がり、全生さんは避難者であることを隠すことにした。いじめは嘘のように消えた。でも、自分を隠して生きることに、彼はいつそう苦しむようになる。「原発事故を起こしたのは大人。学校で虐められるのは子ども」「なぜボクらは避難しているだけで虐められるのでしょうか。それは原発が国策であり、避難した人の証言は国策を否定するものだから」。神田さんはその場面を語りながら、涙を流していた。

フクシマ事故から10年目の今年、神田さんはローマ教皇と原発避難少年との運命の出会いを作品にした。フクシマの証言はこれからもずっと続いていく。私たちがやるべきことがみえてくる講談だ。(堀切さとみ)

< 寸劇「韓国サンケン・尾澤孝司が狙われた日」 >

「韓国サンケン労組を支援する会」のリーダーである尾澤孝司さんが、5月突然、事件をデッチ上げられて逮捕・起訴された。そして半年以上勾留されている。いったい何があったのか？ 真相は何か？ 「支援する会」有志が寸劇で訴える。

< 映画『ウイシュマ・サンダマリ』(初公開・山村淳平) >

2021年3月、名古屋入管の収容所でひとりの女性ウイシュマさんがなくなった。彼女はどのような扱いがなされていたのだろうか。そして、なぜ死に至ったのだろうか。ウイシュマさんを知る元収容者と面会支援者の語りによって、それをさぐってゆく。犠牲者は、ウイシュマさんだけではない。死亡事件後も名古屋入管では、暴力的な対応、患者の放置、家族をひきさく強制送還がおきている。

* 詳細はチラシをご覧ください。

「3分ビデオ・川柳」大募集！

締切＝12月15日(水) レイバーネット事務局必着

● 3分ビデオ

仕事のこと、生活のこと、社会のこと、言いたいことを3分の作品にまとめて下さい。内容は自由です。DVDまたはデータを名前・タイトル・連絡先

を明記の上、お送りください。

● 川柳

一人2句まで。テーマは「2021年を振り返って、いま言いたいこと」。事務局あてにメール・FAX・郵便でお送りください。当日優秀作を発表します。→ 応募フォーム <http://labornetjp.jimdofree.com/senryu3/>



各プロジェクト活動報告

<レイバーネットTV>



「アベスガ政治を終わらせよう！」衆院選に向けて発信

9月・10月のレイバーネットTVは、衆院選に向けて問題提起をしました。162号(9/15)では佐高信さんをゲストに「アベスガ政治を終わらせよう！ディスカッション」、163号(10/20)では海渡雄一弁護士、日比野敏陽さん(写真)をゲストに「総選挙深掘り 原子力村のドン・甘利への審判」でした。164号(11/17)は大野和興さんをゲストに「日本の農業がなくなっていくのか！～コメ大暴落と「貧民連合」」をお送りします。また12月は恒例の「映画と本で振り返る2021年」をやります。視聴者参加番組で、みなさんの「今年一押し」アンケートもありますので、ぜひご協力ください。

<レイバーブッククラブ>

あらためて本の存在の大きさを実感



〈ブッククラブ〉は回を重ねるごとに議論が活発になるようです。常連の方だけでなく初めての参加者も積極的に意見が言える—これを〈レイバーブッククラブ〉のよき伝統にしたいと思います。この間、29回『労働組合とは何か』(6/6)、30回『追想美術館』(7/17)、31回『他者の靴を履く—アナーキック・エンパシーのすすめ』(9/18)、32回『デジタル・ファシズム』(11/6 写真上)と読書会をオンラインで続けています。なお年末恒例の「映画と本」特集のレイバーネットTV(12/15)では「アンケート今年の一冊」の実施が、また〈ブッククラブ〉メンバー二人の出演が決まっています。また「週

刊本の発見」は新しい書き手も加わり、毎回楽しみです。書評依頼も増え、増刊を考えようかという状態ですが、とりあえず随時「書評」として掲載することにしています。活字の衰退が言われますが、情報量ひとつとっても本の存在に代わるものはないでしょう。〈ブッククラブ〉次回は12/18、ぜひご参加ください。(志真秀弘)

<レイバーシネクラブ>

『すばらしき世界』日本社会の現実がみえてくる

10月16日に、5カ月ぶりにシネクラブ開催しました。今回特筆すべきは、スクリーンが100インチの大きなものにかわったこと。役所広司演じる元ヤクザが、まっすぐなままシャバに出て再出発するその人間模様を、映画館さながらの上映環境で観ることができました。12名が映画を観て、10名が討論に参加しました。男性は三名。あとは女性。佐木隆三「身分帳」が原作とはいえ、ラストの介護施設など西川美和監督が付け加え、現在の社会を言い当てた場面がたくさんありました。刑務所は「いじめるのが仕事」「痛い目に合わせる場所」という反面、やはり社会から守ってもらえる場所でもあります。出所しても何割かの人が戻ってくる場所。それほどムシヨ帰りの人が容易に生きられる社会ではない。それでもこの映画では、まっすぐに正直に生きる主人公・三上に対して、どこかで共感し支える人たちがたくさん出てきます。そのうちの一人がいうセリフに「ルールを外れてない人間も幸せを感じられないから、ルールを外れた人間に冷たく当たる」というのがありましたが、みな生き難さを感じている。『すばらしき世界』というタイトルの意味するものや、三上は最後、なぜ死んだのかをめぐって、自由な討論になりました。(堀切さとみ)

<あるくラジオ>

「官製ワーキングプアの女性たち」

しまひでひろ・ささきゆみさんがパーソナリティを務める「あるくラジオ」も18回目となりました。10月17日の放送は、瀬山紀子さん(元公立女性関連施設非常勤職員)と山岸薫さん(ハローワーク非正規相談員)をゲストに、不安定・低賃金・差別の「非正規公務員/官製ワーキングプアの女性たち」の実態を伝えました。「非正規公務員」の8割は女性で、この問題は「労働問題」とともに「女性問題」でもあります。こうした現状を変えようと頑張っている「公務非正規女性全国ネットワーク」(はむねっと)の活動も知ることができました。なお次回は12月5日(日)放送で、ゲストはJAL被解雇者労働組合(JHU)委員長の山口宏弥さん。解雇争議の話だけでなく、ベテランパイロットとして体験してきた「空の安全」についてもたっぷり伺います。詳細は「あるくラジオ」で検索してください。

吉田晴美さん当選！これはゴールではなく始まりだ

東京8区からの私的報告 永田浩三

*野党陣営にとっては厳しい結果となった衆院選。しかし「東京8区」では希望の動きがあった。永田浩三さんが10月31日深夜に書いたレポートを以下紹介する。(編集部)



10月31日夜 当選した吉田晴美さんと筆者(左)

東京8区は杉並区の大部分。今回ついに悲願を達成できた。立憲民主党公認で、市民と野党の統一候補の吉田晴美さんが当選したのだ。これまで8回にわたって石原伸晃元自民党幹事長が連続当選を続けてきた。石原軍団が勢揃いし、華やかな選挙戦に人だけかりができた。だが、彼は政治家として問題がありすぎないか。原発事故の被害者に対して「金目でしょ」と言ったり、生活保護を受けているひとを「ナマポ」と言ってさげすんだり・・・。

わたしを含め杉並区民の有志は、6年前から、石原氏の打倒を目標に準備を進めてきた。秘密保護法・集団的自衛権の問題だけでなく、沖縄の辺野古の新基地建設反対や原子爆禁止運動について、地域の小さな勉強会を繰り返した。

杉並区は1954年のビキニ事件のとき、日本だけでなく世界に広がった水爆反対署名の起点となったところ。原発反対の高円寺の乱もその延長上にあった。

前回、2017年の総選挙では、対抗馬の候補者一本化はかなわなかった。立憲・共産・希望・無所属などが乱立。にもかかわらず、立憲の吉田晴美候補は石原氏を二万票あまりの差まで追い詰めた。今度がんばれば、ひょっとして石原氏を倒せるかもしれない。区民の話し合いの場は「@杉並」から始まり、「政治をかえる8区の会」にリニューアルした。

そして今回の総選挙。立憲の吉田さん、共産の上保さん、れいわの辻村さんという3人の候補者と区民が共通政策を作っていくという地道な作業が繰り返された。われわれは、決して乱暴な一本化はしてはならないと考えていた。ひとりひとりにリスペクトを持ち、時期が熟せば、結果的に結論が出るに違いない・・・。だが簡単ではなかった。

そんななか思いもかけないことが起きる。10月8日、れいわ新選組代表の山本太郎氏が東京8区から野党統一候補として立候補することを表明したのだ。そんなことは聞いていない。地域の有志から山本代表に対して、「吉田晴美さんですすでに一本化し

ていたのに」という質問をぶつけたが、これは正確ではない。東京8区はどうなるのか。全国の注目が集まった。

だが3日後、山本代表は立候補の断念を表明。これを機に、結果的に候補者一本化が一気に進むことになった。一本化とは2人の候補が降りること。「政治をかえる8区の会」主催の集まりに吉田・上保・辻村の3人の候補者がそろい、そこで吉田晴美さんへの一本化が実現した。候補者の素晴らしさに対して、異論は出なかった。それでも一本化は痛ましいものでもあった。

混乱はどこから来たのか。主な理由は、立憲民主党東京都連にあると、わたしは想像するが、正確なところが明らかになるまで、すこし時間がかかるだろう。吉田さん、山本代表どちらも、混乱の直接の原因ではない。

さて、選挙戦である。8日からはほんとうに嵐のようだったが、政党、地域の活動との連携は見事だった。前候補者の上保さんは最終日まで吉田さんの応援に貼り付いた。前川喜平さん、宇都宮健児さん、神田香織さんも応援に駆けつけて下さった。



山本太郎代表と吉田候補が共同街宣(10/22)

わたしも何度か演説をさせてもらったが、吉田さんの周りにはどんどんひとが増えていった。こんなに楽しい選挙活動はなかった。道行くゆくひとの多くが、「がんばれ」と声をかけてくれた。開票中継のなかの分析では、無党派層の7割以上が吉田さんを支持したようだ。地滑り的な勝利。みんな怒っていたんだ。政治を変えたかったんだ。

だが、総選挙全体で見るとどうだろう。甘利自民党幹事長は選挙区では負けたが、立憲野党の大物も次々に落選した。

そうしたなかで、吉田晴美さんというひとを国会に送り出す意味は大きい。これはゴールではなく始まりだ。これからも地域からの民主主義を大事に育てていきたい。これは私的な報告だ。行き届いていないところが多々あることをお許しいただきたい。(政治をかえる8区の会 よびかけ人共同代表)

新会員紹介

●メトロコマースのたたかいを応援 大場ひろみ

こんにちは、大場ひろみと申します。最近はやっていませんが、ちんどん屋（ちんどんワカメ）として活動し、東京のベテランちんどん屋さん多数に取材して、聞き書きとそれに基づく歴史を描いた「チンドンー聞き書きちんどん屋物語」（バジリコ刊）の著書があります。実はメトロコマース裁判原告の一人、後呂良子さんと芝居で共演した経験があり、裁判では傍聴応援をさせていただきました。その縁でレイバー映画祭も度々参加してまいり、この度やっとこさ会員に加入させていただいた次第です。メーリングリストの情報量と皆さんの熱意に圧倒されながらも、何とかついていっています。メトロコマース裁判については、「怒りの不当判決!! その後の報告集会～労契法 20 条裁判メトロコマース事件最高裁判決から 1 年」が、11 月 22 日・日比谷図書文化館 4F 小ホールが開かれます。その参考として、WEB マガジン「現代の理論」（無料、見放題）27 号に私が執筆した「黙らない女たち、かく闘うメトロコマース裁判原告インタビューから見えてくるもの」（上）も是非検索して見て下さい。続きの（下）は 28 号（11 月中旬発刊）に掲載予定です。（写真右 = 11/22 集会のチラシから）

●津久井やまゆり園事件の映画をつくる 澤則雄

皆さま、初めまして。会員にさせていただいた澤則雄（69 才）です。津久井やまゆり園事件「生きるのに理由はあるの？」（2019 年）を制作しました。元テレビプロデューサー、主に旅番組や釣り番組の制作でした。今回初めてドキュメンタリー映画を制作しました。その切っ掛けを与えてくれたのは、日野市で障害者支援をしている NPO 法人の紹介ビデオを制作した事でした。そこの理事長は 1970 年代府中療育センター闘争に関わっていました。その方のお話を聞いて、改めて津久井やまゆり園事件を考えてみようと思いました。現在はそのグループホームで勤務しています。目黒区ではガイドヘルパーも始めました。3 年目です。よろしくお願ひします。

●農業労働者の組織化めざしたい 辻栄克則

出身地の登別市で小売業に勤務しながら、苫小牧市に事務所を置き行政書士をしています。1970 年生まれ、下請け建設業の家庭で育ちました。金沢、京都に出て、反原発や反差別の運動を中心に取り組みました。98 年前後に事件化した京都大学での部落差別への対応が、私の業績と呼べるものでした。その後は統合失調症を患いながら単身生活を



続けました。働けることの喜びに依拠して生きのびました。農業に転職した頃、苦しみが消えました。レイバーネットの一員としては、農業労働者の組織化を意識していきたいと思います。合意書や規約の作成、行政不服申立などお手伝い可能です。twitter アカウント tsujie1970。（つじえかつのり）

●脱原発に取り組んでします 小張佐恵子

豊島区生まれ、茨城県土浦市在住の 69 歳。彫刻家。2011 年脱原発ネットワーク茨城を立上げ、福島応援プロジェクト茨城の活動で、子どもの保養受入れと避難者支援に取組み、学習会・講演会・上映会・写真展を開催し続けてきました。今一番の課題は、3 人の娘の母親が、避難住宅の家賃滞納問題で福島県庁から調停を起こされている案件の支援です。12 月 18 日開催予定の第 2 回シンポジウム「福島の 10 年から考える避難計画の問題点」の準備、及び「東海第二原発いらない！首都圏ネットワーク」12.11 一斉アピール行動事務局の告知活動もしています。原発いらない HP <https://atcube8.main.jp/24> 応援プロジェクトブログ <https://blog.goo.ne.jp/oueniba> をご参照の上、ぜひご参加ください。

●「呆れ果てても諦めない」講談師 神田香織

「呆れ果てても諦めない」講談師神田香織です。11 月 3 日、国会議事堂前で「憲法公布 75 年憲法大行動」が開催され私が司会を務めました。総選挙の直後で様々な感情が交錯する中、司会の第一声は責任重大です。「高座百編、私たち芸人は回を重ねるごとに手応えを得ます。野党共闘も～」とスタート。なんとこの時に、紺碧の青空に龍の顔をした雲が湧き上がったのです。「雲が龍になって憲法を守れと神田香織さん応援しているようだ」と声が上がりました。登壇者たち、そして参加の皆さん、闘い終えた候補者たち、全国の野党共闘を支援する方々への空からのエールに違いありません。古来から幸運を招くと言われていた龍神雲。来年はきつといい年に致しましょう！

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 560 名

ウェブアクセス 1 日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000 円

(B 会員 = 5,000 円 通常 + TV サポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所

普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578